

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 4 区分
 【発行日】平成 17 年 7 月 7 日 (2005.7.7)

【公開番号】特開 2003-154746 (P2003-154746A)
 【公開日】平成 15 年 5 月 27 日 (2003.5.27)
 【出願番号】特願 2001-353451 (P2001-353451)
 【国際特許分類第 7 版】

B 4 1 M 5/00

B 4 1 J 2/01

D 2 1 H 19/20

【F I】

B 4 1 M 5/00 B

D 2 1 H 19/20 B

B 4 1 J 3/04 1 0 1 Y

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 11 月 5 日 (2004.11.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アミノ基を含有するポリビニルアルコール系樹脂 (A) およびオキシアルキレン基含有ポリビニルアルコール系樹脂 (B) を含有してなる樹脂組成物を支持基材中または支持基材表面に有してなることを特徴とするインクジェット用記録シート。

【請求項 2】

アミノ基の含有量が 8 モル % 以上であるポリビニルアルコール系樹脂 (A) を用いることを特徴とする請求項 1 記載のインクジェット用記録シート。

【請求項 3】

ポリビニルアルコール系樹脂 (A) が 0.1 ~ 1.0 モル % のアミド基を含有していることを特徴とする請求項 1 または 2 記載のインクジェット用記録シート。

【請求項 4】

オキシアルキレン基の含有量が 0.2 ~ 5 モル % であるポリビニルアルコール系樹脂 (B) を用いることを特徴とする請求項 1 ~ 3 いずれか記載のインクジェット用記録シート。

【請求項 5】

樹脂組成物がさらに耐水化剤 (C) を含有してなることを特徴とする請求項 1 ~ 4 いずれか記載のインクジェット用記録シート。

【請求項 6】

耐水化剤 (C) が、アルデヒド化合物であることを特徴とする請求項 5 記載のインクジェット用記録シート。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 9】

かかる酢酸ビニル成分のケン化度の好ましい範囲は60～100モル%で、さらには90～100モル%で、かかるケン化度が60モル%未満では、最終的に得られるポリビニルアルコール系樹脂(A)の水溶性が低下したり、ポリビニルアルコール(B)との相溶性が低下したりする場合があります好ましくない。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0054

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0054】

耐水化剤(C)の含有量は特に限定されないが、ポリビニルアルコール系樹脂(A)100重量部に対して、1～15重量部(さらには1～10重量部、特に1～5重量部)が好ましく、かかる含有量が1重量部未満では耐水性付与の効果が小さく、逆に15重量部を越えるとインク吸収速度が低下したり、得られる樹脂組成物の水溶液の粘度安定性が低下して好ましくない。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0057

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0057】

樹脂組成物を基材に適用するにあたっては、該樹脂組成物を基材表面に塗工することにより、基材の表面あるいは基材に浸透して基材中に該樹脂組成物を存在させることができ、かかる塗工にあたっては、サイズプレスコート、ロールコーター法、エヤー Doktor 法、ブレードコーター法、ゲートルールコーター法等の公知の任意の方法が採用されるが、該樹脂組成物を塗工するときは、固形分が1～70重量%(更には2～60重量%、特に5～50重量%)の水溶液とすることが好ましく、かかる固形分が、1重量%未満では、付着量が少なく、印画濃度や表面紙力強度も低く実用性に乏しいものとなり、逆に70重量%を越えると塗工液の粘度が高くなるため、塗工が困難になり、また塗工斑も生じるために好ましくない。基材に塗工される樹脂組成物の塗布量は、固形分換算で0.1～40 g/m²、特に好ましくは0.5～20 g/m²程度になるようにするのが適当である。